

参考資料 1

第2回 犬山市総合計画審議会 議事録

日 時：平成28年9月12日（月）19時から21時7分

場 所：犬山市役所 2階 205会議室

1 開 会

○事務局 皆様こんばんは。秋らしい気配が感じられるところですが、まだまだ暑い日が続いております。本日は本当にご多用の中、ご出席頂きましてありがとうございます。ご案内の時刻になりました。ただ今から、第2回犬山市総合計画審議会を始めさせていただきます。本来、ここでA会長にご挨拶頂くところなのですが、今、A会長がこちらの方に向かっている最中でありまして、まもなくご到着といった状況でございます。従いまして、本日の会議におきましては犬山市総合計画審議会の設置条例第4条の第3項に、会長に代わって副会長が総理するとございます。従いまして、E副会長様に本日の議事を頂きたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。それではここで、副会長のEさんの方からご挨拶賜りたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

○E副会長 皆さん、こんばんは。すいません、A会長が少し遅られるということですので、急遽なんですけれども、私が務めさせて頂きたいという風に思います。今日は第2回ということなんですけれども、総合計画の審議委員会なのですが、最近世の中はソーシャルインパクト評価ということで、そういう流行みたいなものを起こそうという人達が見えますけれども、内閣府も、ごく最近、この報告書を出したりというところなんです。私が心配していることは、評価ありきになっているというところがとても心配で、大切なのはやはり、これから目標達成の為に何をやっていくかということで。この審議会でも出来れば、出来るだけ、どういうことをやっていけば良いかという改訂の部分の理論というものを皆様と一緒にさせて頂ければな、という風に思っております。今日はどうぞよろしくお願い致します。

1 議 事

(1) 協議事項

【全体】

○事務局 ありがとうございました。それでは本日の会議でございますが、午後7時のスタートでございますが、概ね2時間程度とさせていただきます。9時終了という予定でございますので、皆様ご協力の方をよろしくお願い致します。続きまして本日の出席議員の確

認をさせていただきます。出席委員は15名でございますが、D委員につきましては残念ながら欠席でございます。A会長はまもなくご到着されます。従いまして、本日の出席は過半数に十分達しております。犬山市総合計画審議会設置条例、第6条第2項に基づきまして、本日の会議でございますが、成立とさせていただきますので、皆様にご報告させていただきます。続きまして本日の会の資料、先般ご送付させていただきましたもので、本日の机の上に配置してございますが、たくさんの資料となっております。この場確認をさせていただきますので、よろしく申し上げます。本日の次第、そしてまた委員名簿に続きまして、先般ご送付させていただきました。別紙ですね。別紙の「始めにお読みください」。続きまして、まずは資料の1、資料の1は2つありまして、1-1の「序論及び基本計画（案）の見直しと内容について」というものがございます。それが資料1-1です。続きまして資料の1-2で、こちらは「第5次犬山市総合計画、基本構想中間見直しの案」でございます。続いて資料の2でございます。第1回審議会の委員発言、こちらの要旨をまとめたものになります。続いては資料の3で、これは2つございます。資料の3-1につきましては、施策の達成状況の振り返りについてということで、棚卸シートがございますが、こちらの概要をまとめたものでございます。3-2につきましては、このシートの達成状況を表にしたものでございます。A3の横のもの、こちらが3-2の達成状況、そして資料の4でございます。第5次犬山市総合計画に関する市民意識調査。この結果を概要としてまとめたものでございます。続いて資料の5につきましては、近年における社会情勢のまとめ、こちらが資料の5となっております。加えまして、その下を見て頂くと、参考資料を私ども、大量に用意してございます。参考資料の1につきましては、第1回犬山市総合計画審議会の議事録でございます。そして参考資料の2でございます。分厚い長辺とじでございますが、棚卸シートでございます。それが参考資料の2。続いて参考資料の3につきましては、第5次犬山市総合計画中間見直しに向けた市民調査結果、という風になっております。続いて参考資料の4。8月に開催されました、「平成28年度真夏のタウンミーティング」の開催結果でございます。続いて参考資料の5でございますが、昨年度策定致しました「いいね！いぬやま総合戦略」の昨年度の策定時に資料した資料です。5-1と5-3と、2つございます。以上が本日の既にお配りした資料でございますが、加えまして、今机の上には第5次犬山市総合計画の本冊と概要版、そして「いいね！いぬやま総合戦略」の、同じく本冊と概要版、こちらを用意させていただきます。非常に大量な資料ですが、過不足等ございましたらこちらの方にお申し付け下さい。よろしかったでし

ようか。また大変恐縮ですが、資料の差し替えと追加資料がございます。それについての説明をさせていただきます。

○事務局より追加資料と差し替え資料の説明

○事務局 たくさんの資料がございますので、補足等含めてよろしかったでしょうか。それではさっそく、ここから議事の方に移らせて頂きます。議事進行を副会長、よろしくお願い致します。

○E副会長 それでは議事を進めさせて頂きたいと思いますので、ご協力お願い致します。まずは報告事項からですね。報告事項で、第1回審議会のまとめ。この報告を事務局の方からお願いします。

○事務局 引き続き報告させていただきます。

○事務局より第1回審議会のまとめと本日協議する事項の説明

○E副会長 ありがとうございます。前回の審議会の報告ですので、この内容について何かご質問とかご意見ございますか？後半に議論の時間をたくさん頂きたいと思いますので、また何かありましたら事務局の方に聞いて頂けたらと思います。では協議事項の方に移らせて頂きます。協議事項の方の、2つあります、まず1の方が「総合計画基本構想（案）について」ということで、こちらの方も事務局の方から、資料もたくさんあると思いますけれども、ここは先程少し触れられましたけれど、もう少し詳しく説明して頂けますか。お願いします。

○事務局 承知しました。

○事務局より「協議事項（1）総合計画基本構想（案）について」の説明

○E副会長 とても簡潔に説明頂いて、ありがとうございます。今の説明ですと、土地利用とまちづくり宣言は今後、第2回以降に提示していくということで。今回見直された

ところでは、まちづくりの主要課題のところとか、総合戦略に基づいた人口ビジョンに基づいた目標のところであるとか、交流人口のところが一と通り見直されていると思いますけれど、どこからでも構いませんので、皆さんご自由にご意見等ご質問頂けますでしょうか。

○N委員 資料1-2の基本構想中間見直し案と17ページの真ん中より下の交流人口の目標の、観光交流人口600万人の下の「通勤通学人口の市外への流出超過を400人削減し1,500人を目指します」という目標なんですけど、非常に弱気だなと思うんですよね。流出超過であることには変わらないし、この1,500人を目指す目標なんですけど、400人削減ということなので、1,900人が1,500人に、しかも減る数字には変わらないということで、目標としてはあんまりもう「よし、やるぞ」という意欲が沸いてこない数字だと思うんですけれども。もうちょっと強気な数字にできないかなという風に思います。

○E副会長 皆さん結構一様に頷いていらっしゃった方もいるかと思いますが、このことに関して何かご意見ある方いらっしゃいますか？交流人口に関してはなるべく議論を絡めたいなと思いますので、いかがでしょうか。あまり、事務局に聞いてもどうかなと私は思っていますけども。Nさんはどうですか。

○N委員 細かい対応策が次の18ページに書いてありますが、平成22年の調査で1,900人で、平成17年より改善しているんですよね。その後に流出人口が1,500人目標で更に400人ということは結局また減る方に行く。段々改善されてきているけれど、今後また減っていくんだよと。例えばそれをできるだけ抑えましょうねというような目標の話。じわじわと減っていく動向。波はあるけど減っていくんだよという諦めの境地。あまり根拠も書いてないので、どうしてこんなに減り続けるんだろう？と。今段々改善されていっていることなので、もっと改善して、寧ろプラスに上昇しようぜという風に思いたいんですけれどね。

○E副会長 多分、この議論をし出すと凄いことになると思いますけど、少し他の方、この件に関して何かご意見があればお聞きしたいなと。C先生いかがですか。

○C委員 確かにこういう総合計画というのは何か夢が持てる計画じゃないとやる気が、モチベーションが下がってしまいますので、それもわかるんですけれども、流出をなくすということは、ここに留まるようになるべく何かしらその対策と申しますか、施策が必要なんです。それが今、企業誘致とか、大学・高校の魅力ある環境づくりですかというものが一応、その施策。これによって流出をなくそうということなんです。こ

れでいけるかどうかという判断になると思います。私の個人的な意見で申し上げますと、あまり企業誘致の時代ではないんじゃないかなと思っております。やはり市民がアイデアを出し合って、まちづくりを考えていくというか。これからは企業の誘致とするよりも、人材を育てるというか。そっちの方に力を入れてはどうかなと。本当に地元で起業するような人が出てきたり、色々若者が何かお店をやったり。そういうことで何て言いましょうか、内需拡大じゃないですけど、内からこう盛り上げていくような、そういうことが何か考えられたら良いなと思って、ちょっと外から見ているとそういう風に思います。

○E副会長 ありがとうございます。皆様、これも恐らくこの後に議論する「どういう施策を行っていくか」という方針を決めてからのことではないのかなと思うんですね。今のNさんのご意見で、ちょっと弱気はやめようよというのはですよ。じっくりと私もお聞きしましたので。弱気かどうかは施策次第かなというように思っていますけれども。他に何かいいですか。どうぞ。

○H委員 すみません、この数字だけ見ると、400人削減という数字だけで見てしまって、下げ幅、年々どれくらい削減していつまで、それが400人というのが、いつものその下がっていく幅よりも最小限に留めてよかった、そういう言葉で語られると、もう少し前より4月は1,000人に下がったんだけど400人に留めておきたいという、そういう捉え方とかそういうことが出来ると、本当にこう、22年度調査と17年度調査でこういう風ですということと、確かにそういう風に、ちょっと弱気じゃないかなって思うけれども、その前の年は1,000人だったよ。では今回は400人に抑えましょう、ということなら、ちょっと、前よりは改善になるのかなと私は思ったものですが、すみません。

○E副会長 ありがとうございます。過去の日程、修正をちゃんと示した上で示すということですよ。表記の、表現の仕方だと思いますので。ありがとうございます。今日何かご意見とかありますか。ご質問でも良いですよ。

○B委員 そもそも通勤・通学人口を交流人口として把握するというのはどうなのかということですね。基本的にここに住んで仕事なり学校なりに行って、要するに働くということで、他のところで働いて、そしてお金を持って来てここで税金を払って生活してくれる、それはそれで外貨を外から稼いでくれるという、非常にありがたい市民だと思うんですね。そして、ここで生活を送る。そしてそこで福祉だとか、或いは幼児教育を充実させることによって、この地域に住んで、そして外からお金を持ってくる。これ

は非常にありがたいシステムであって、そう考えると辻褃というものをですね、交流として、そしてそれを増やしていかななくては逆に流出してしまうのを留めなくてはいけない、という風な感じのというのはいかがなものかという風には思っております。この後の議論で発言させて頂きたいと思えます。

○E副会長 ありがとうございます。本当にそうだと思いますので、外貨を稼ぐというのは大変ですが、ただこの交流人口をどういう風に捉えるかということももう少し、それこそ私達の方で議論しないと、今それぞれの風潮で話をしているのではないかと思っておりますので。ありがとうございます。他に何かございますか。ここに集中していますけれども。どこからの観点でも結構ですので。はい、どうぞ。

○M委員 このところで申し上げるのが良いのかどうかわかりませんが、犬山の市の施設の老朽化の問題というのが過去の総合計画については書かれていないので。これはどこの時代もそうなのですけれども、昭和40～50年代に作った建物がどんどん老朽化している。それを更新していくのに何百億円かかるというのをどうするかというのをどこかに入れ込んでいくべきじゃないかなと思います。

○E副会長 ありがとうございます。他にございますか。ちょっとまずはたくさん意見を出して頂けるとありがたいのですけれど。

○B委員 主要課題の4の10ページですね。こちらで、地域に応じた多様な活動の推進というのが書かれて、付け加えられている部分は下線が引いてあると思うのですけれど、この具体的な姿が、ここに私も住んでいるわけではありませんのでわからないんですけども、いろんな組織があっっているような重層的な地域というものが形成されて、そしてそれも各地区によって全然、特徴が異なっているんですね。その中で地域の個性が見えてくると思うんです。そう考えると各地区ごとに色々な取り組みがあっってどういうことが特色としてあるのかということなんですね。本来クローズアップさせていくべきことだと思うんですけど、どうもこれから議論になるでしょうが、土地利用構想ゾーンなんかを見ると、まさに市の全体を一つのキャンパスのような形で、そこに地区性というものは全くこう、あまり、いわばそこに人が住んでコミュニティ活動をしているということがあまり見えない。そういった土地利用構想ゾーンをですね、21ページになっているというわけですね。これはちょっといかがなものかと思うんですね。各地区それぞれがそれぞれの保全活用ゾーンだとか自然共生ゾーンだとかそういうのを持っているはずなのに、市全体をこのような形で色づけされて色分けされてしまうというのはちょっ

と違和感があるんですね。もっと地域の個性、或いはその地区の中の様々なエリアと拡張しているのかという議論があつて、こういうものが出てくれば良いんですけども、文言としては先程申し上げたそんなところであるにも関わらず、最終的にこのような絵になってしまうというところがいかなものかなと思っております。

○E副会長 ありがとうございます。今の主要課題のところの文言はあるけれども土地利用構想の方が非常にあっさりとしているということですよ。

○B委員 土地利用構想に限らず施策も、各地区のいろんな取り組みを、良いところを横展開させていくとかですね。そういった評価というものが、市全体の形で施策としてどのような形で評価をされて具体化されて、というのがちょっと見えづらいというのが、以上です。

○E副会長 それは先程事務局の方からも説明があつたと思いますけど、恐らくこの後に、今後見直すべき施策とか事業とかの議論をしっかりとした上で、その上で土地利用構想というところをゆっくりとしていくんじゃないとか、その時点である程度この主要課題のところを、これも変わってくるんじゃないのかなと思っておりますので、そういう今、ちょっとこれはあまりにも見た目ですよ。何も見えないという。そういう風になっている。

○I委員 よろしいですか？今非常に抽象的な議論ばかりですので。出来たらもう少し具体的に地域が見えるような、そういう議論が展開されるのが一番良いんじゃないかと思うんですけどね。交流人口って私ら素人でよくわからないんだけど、通勤・通学等よりも観光客っていうかね。犬山には、やっぱりそれが一番重要な交流人口ではないかなと。そういう風に思いますね。これだけの施設、観光のものが揃っている地域は犬山市以外に見当たらないと思うんですよ。相当いろんなものがあると思うんです。それで、それを有効に繋げていく、そういう風な仕組みをやはり都市計画の中で構築すべきではないかなと、そういうことを思うんです。ですから、交流人口を引き付けるためにはやはり高速道路、道路の交通性というものが極めて重要である。今、高速道路を考えた時に、国道41号というのは渋滞で、もう名古屋から犬山へ来るのに1時間以上、ひょっとすると1時間半掛かるとか2時間掛かるとかということで、「とんでもない」「犬山に行きづらい」という風に私は聞いております。それから、小牧東インター。これをもう少しスムーズに、犬山と町内を結びつけるような、観光地を結びつけるような、そういう道路網というか、そういう整備が必要ではないかなと。それが極めて重要だと。ここの

2つ、私は出来たら犬山をアピールするために小牧東インターではない、犬山インター、もしくは小牧東がどうしてもダメなら2つ付けて小牧東犬山インターにという風な名称に変えたらどうか、そういうことを徹底できるかな、ということをおもったりしています。ちょっと具体的になりましたけど。

○E副会長 ありがとうございます。お気持ちはとてもよくわかりますので。恐らく皆さん、この抽象的な議論をもっと具体的な施策と事業の議論をしていくと。その上で、恐らくここの表現がしっくり来ているかどうか、というような話かなというところでお聞きをしておりました。それでは、どうも先程のB先生もそうですけど、早く2の方に移りたいなみたいな、そんな印象を受けますので、ここの基本構想部分の見直しに関しましては、土地利用とまちづくり宣言のところは、この第2回以降に具体的に議論をしていくという内容ですので、そこはこの後も議論をさせて頂けたらなと思います。ただ他の部分に関しては、先程、N委員とかB先生からお話頂いた交流人口の部分の、この表現ですね。施策とかなり連動するかなと思いますので、ここも少し皆様と議論をした方が良いのかなという風に思います。他の部分は、この総合戦略との連動であるとか表現の関係ですので、今後のところで、会長さんもお越し頂きましたので相談をさせて頂いて、また次回お示しをさせて頂けたらなと思いますけども、いかがでしょうか。

○J委員 すみません。質問ありますかということによろしいでしょうか。

○E副会長 どうぞ。ご質問等おありになったら。

○J委員 16ページの「目標人口達成のために」という中で、出生率の向上が必要というところなんですけれども、犬山市の出生率ということですね。あと、時間としてですね、子どもも小学校・中学校に行きますけれども、ひとりっ子の家庭というのは凄く少ないと思うんですね。良いとか悪いとかそれは別にして、これって今いる人がもっと産んでくださいということなのか、それとも若い新婚さんが犬山に住んでくれて新しく赤ちゃんを産んで育てようという、そういうイメージでしょうか。どういうことなのかなど。教えてください。

○E副会長 いいですかね、事務局。まず、現在の出生率の質問と、もう1つが今この出生率の向上の意味ですよ。今の私達にたくさん産んで欲しいのかなですよ。少し具体的に説明して欲しいということなんですけれども、良いですか。

○事務局 はい。ありがとうございます。出生率につきましては、昨年度、犬山総合戦略を作った際に出生率の課題を扱いました。お手元の総合戦略、本冊の方なのですが、5

ページを見て頂きますと、こちらですね。5ページの下の方に「出生率を高めます」とございまして、合計特殊出生率という考え方なのですが、2015年で1.57という、数字となっております。こちらの数値2.07を目標とする。これに今、それぞれの施策をやっ
ていかなければいけないというところですが、そのために、そこにも書かれています
が、まず総合戦略を作る時に課題になったのが晩婚化と晩産化です。若い、結婚する
年齢がどうしても初婚年齢が上がっていて、今、犬山市においても初婚年齢が30歳にか
かっております。加えて晩産化。結婚する年齢が遅いものですから、第一子の産まれる
年齢というのも非常に遅くなって、然るに第二子というのが中々思っているようにいか
ないということもあるというところで、やはりその辺りのところですね。若い世代の婚
姻率、そして出生率を高めていくというのが大事なのかなというところで、具体的にこ
ちらの、そのためには様々な施策があると思うのですが、やはり何と言っても子育ての
希望を叶えるというところが一番大事なのかなと思っています。子どもを産み育てる。
このまちで育てていくということが、光り輝いた希望のあるものであるというのを、皆
さん期待が持てるような世の中にしていくと。抽象的だと言われていて抽象的なことを
言って申し訳ないですけども、そういったところが必要かなと。そして、そのために
やはり子育て支援の施策ですとか、やはり人口問題は総合的施策になってくると思いま
すので、様々な施策事業を組み合わせ、住みやすい、子どもを産みたい、産みやすい
なあと考える、育てやすいまちにしていくというのが大事なのかなと思っております。
以上です。

○E副会長 ありがとうございます。合計特殊出生率が2015年は1.57であったんですけ
れども、2040年には2.07を目指すということで、2つ目のご質問の方は、これもどちら
かといえば施策になってくると思いますので、これから是非議論させて頂けたらと思
います。他にご質問はございますか？それでは、先程お願いさせて頂いたように、土地
利用とまちづくり宣言のことは今後議論させていただくとして、交流人口も更に議論を
するという。3点以外のところは、A会長さんと私の方で少し相談をさせて頂きながら
進めさせて頂けるとありがたいと思いますけどもよろしいでしょうか。ありがとうございます。
それでは、今日一番時間を使いたかったところで、協議事項の2番のところ
ですね。「今後6年間に必要な施策・事業について」ということで、ここのところに入って
いきたいという風に思います。事務局から説明を頂きたいと思いますが、資料がとても
膨大ですので、出来るだけ皆さんの議論を取りたいと思いますので、簡潔にご説明頂け

たらと思います。お願いします。

○事務局 はい。わかりました。

○事務局より資料2～参考資料5の説明

○E副会長 ありがとうございます。今回は資料全くなしで議論に入りましたけれども、今回は盛り沢山すぎて中々つらいところもありますけれども、今、事務局から説明がありましたように、こういった資料というのは定量的なデータなんですね。何を指すかということは多くの市民の人が大事ということなんですけれども、どういうことだったら良いかというのは、たった一人の意見でもそれが物凄く有効だったら良いということですので、是非この後皆さんと一緒に協議させて頂きたいと思います。協議の時間をたくさん取りたいと思いますので、今の事務局の資料の説明に関する質問は、この後グループに分かれて協議していきたいと思いますので、その都度ご質問頂けたらなと思います。よろしいでしょうか。それではこの後ですよ。1回目の時と同じように2つのグループに分かれて議論して頂きたいと思います。先程から出ていますように、総合計画の今後6年間に特に重点的に行っていく有効な魅力ある施策・事業ということについて、ご議論頂けたらなという風に思います。それではグループの方は説明頂けますか。

○事務局 グループ分けになりますが、お配りしております名簿をご覧頂きますと、これの右側にグループに分けております。こちらのAとBに分かれて頂きます。Aグループについては事務局側の入口の左手、Bグループにつきましては会長・副会長様の後ろのテーブルで集まって頂ければと思いますので、よろしくお願い致します。

○E副会長 ありがとうございます。それでは、今から50分までいっぱい議論して頂きたいと思います。グループ間同士の共有をする時間を作るとまたグループ間の協議の時間がなくなってしまいますので、今日はグループ内でしっかり議論をして頂いて、その後事務局で整理をして頂いて、次回共有させて頂いたらどうかと思います。残りの10分くらいで、それぞれの全体的なご意見を頂けたらなと思いますので、このような進め方でよろしいでしょうか。では、グループに分かれて頂けますでしょうか。お願いします。

【A グループ】(テーブルA)

○事務局 具体的には、今から 30 分強位をディスカッションでざっくばらんな議論をさせて頂いて、その後お一人ずつ、このグループの中で自分は最終的にこういうことが大事だと思うというような内容を、発表というかお話をさせて頂いて、それぞれのお考えを共有していきたいと思います。それで、そのための道具を用意しまして、まずは今の施策はどんなものがあるのか総合計画の本冊の中にもありますが、こちらを表にしてまとめてみました。10 の宣言があつて、それぞれの個別の施策はこういうものがあるよということで、それを傍らに置いて頂いて、現状でこういうものがあるなど、いう参考にしてご覧ください。ただし、これに捉われることもございませんので、ここには足りない、他にも何かがあるぞ、必要だぞ、という視点、埋もれているけれど、例えばこういうことが、これから 6 年間にもっと重要なのではないかとといったようなことを今から議論していただきたいと思います。もう一つですね、8 時半以降に色々議論を重ねて頂いたものに、フリップではありませんが、こんな形で今後 6 年間に必要な施策事業はという紙をつくりました。ですので、今からお配りしますのでメモ書きとして使って頂いてよろしいですが、最終的にはこんなことが大事なのだという表現をして頂くためのツールとしてお使い下さい。凄く具体的なことを書いて頂くのも大歓迎ですし、もちろん概念的なところで僕は語りたいということであれば、そういうこともお話頂いて結構です。ここで書いて頂く内容に制限はございません。皆さんが議論して頂いた内容を次の第 3 回へつなげていきたいと思しますので、よろしくお願い致します。では、配ります。では、時間ももったいないですので、より具体的な議論をしていきたいなと思しますので、よろしくお願い致します。それでは、非常に抽象的だけどとても大切な、今後 6 年間に必要なことは一体何なのだろうかということ、さあどうぞというとなかなか難しいところがありますので、やはりトップバッターは N 委員。

○N 委員 僕はめちゃくちゃ具体的ですよ。

○事務局 では、よろしくお願い致します。

○N 委員 追加資料の 2 ページ目を開いて頂いて、満足度が低いところと追加で来た…。似たような資料がいっぱいあるから、わからないですよ。色を全部変えないといけませんよ。冗談ですけど。

○事務局 それはそうですね。

○N 委員 それで、平成 28 年の方の上 3 つ、やはり僕が政治活動をやっていまして、ほ

とんど同じなのです。とにかく買い物する場所がない。不便である。移動手段もないという。それを一挙に解決する方法としまして、五郎丸にまず駅建設です。国道41号と名鉄の路線の交差する部分、中央部分に駅建設。道の駅整備。そしてバスターミナルです。それで一挙解決、以上です。駅は復活というよりは、元々昔は駅があって、昭和43年までは一応駅線としてあって、駅舎があったのは戦後すぐ位からですが、今の高架にした時になくなって。

○C委員 単線ですよ。

○N委員 単線です。周辺は羽黒駅と犬山口駅というのがあって、だいぶ離れています。単線ですれ違いが出来ないのでそこで止まっているのです。だから、駅舎を整備するというのがあって、人口基盤をつくっていかないといけないので、20億から30億ぐらいの事業費がかかるのではないかと。農地と線路から西側が市街地です。東側が市街化調整区域で優良農地、開発が非常に難しいという。

○C委員 市街化もセットでしょうね。そうしないと多分名鉄がのってこないですから。お客さんが本当にいるのかという。多分、つくるのは請願駅になると犬山市がお金を出さないといけないのだけど、あとの維持管理は名鉄がやらないといけないので、どれだけお客さんが乗ってくれるかという議論になってきた時に、市がこれくらい整備をしますよというようなものをバンと出せば、向こうものってくると思います。

○C委員 今、反対側は真っ白なものね。市役所の農業委員会がどう言うか。

○I委員 農業委員会もそうだけれど、やっぱり都市計画が優先だと思う。だから、市街地をどこまで拡大出来るかという地域指定をしないとダメだと思う。ここまで地域を商業地にしますよ、そういうことをキチンと打ち出して、そこに誘致出来る商店とかそういうものの必要な条件をキチンとつけないといけないと思う。無作為に自由に入ってくるだけではダメだと思う。

○N委員 実は先生が仰ったように、今、結構沿道サービスでちょこちょこ商店とか病院なんかが出来て、排水の問題が起きているというのが実情です。計画的にここまですべてを整備する、ここまではしっかり農地を残すということを決めていかないといけない時期かなど。

○I委員 排水をキチンと出来るように、上下水道の完備をまず市がやって、計画をつくってそこへ誘致していくという形にしないと、おかしな都市になる。

○N委員 仰るとおりです。大規模なイオンのようなものよりは道の駅みたいな、特色の

ある、そんなに大規模ではないもので農業を振興させる。この下の方にも「地産地消の推進」とありますけれども、今の市にとってはいちばん望ましいのではないかなと思います。

○C委員 この「魅力ある」という「魅力」の感じ方は色々あると思うのですが、Nさんはどういうイメージなのですか？どういう店が。こういうのは女性に聞いた方が良いのかもしれないですね。

○N委員 そうですね。

○C委員 特に女性の意見が大切でしょうね。

○N委員 遠くまで行って買い物したい場所。

○C委員 買回り品なのでしょう、日用品ではなくて。ちょっと質の高い物を買うところがない。

○I委員 食料品というよりは、まさに買回り品。家具だったり家電だったりですよ。

○C委員 例えばどういうものが足りないですか？

○L委員 それを犬山につくって犬山で消費するのかというと、そんな中途半端なものをつくってもあまり意味がないのかなと思うんですね。イオンとかはすでに各務原とか。

○I委員 色々なところにあるからね。

○L委員 近くにあるわけだから、同じものをつくってじゃあ犬山に行くかということ、もっと大きいものでないとダメな気がするんです。でも、さっき言われた道の駅とかっていうのは、確かに道の駅に特産の野菜を買いにわざわざ行くと思うので、住んでいる人も外部の人も呼べるのかなと。

○I委員 農業者もそこに商品を産直で出荷出来るという仕組みをつくらないといけないと思うんです。そういう風にすれば、農業振興にもなる。そういうことで良い案だとは思いますが。

○事務局 先ほど「特色のある」というフレーズが出たのですが、それは農業と絡めた何かというようなものなのでしょうか。

○N委員 来年どうも「農業経営戦略計画」が出来るそうですが、今のところミニトマトをつくる計画という話なんかは失笑でしょう。

○事務局 やはり「地産地消」を求める声というか、不満も非常に大きかったですね。

○N委員 本当に難しくはないです。僕は城下町で店をやっていますけれど、今めちゃくちゃ人気がある「芳川屋」さんというフルーツ屋さん。あそこはイチゴのパフェがもの

すごく人気がありますよ。フルーツものはたいてい当たるじゃないですか。それが地産地消ならもっと値段が張れるし。

○I委員 今、朝市が犬山では一般的なんだよね。朝早くて消費する人が少ないものだから、やっぱり固定の施設で売るといふか、そこへ行ったら必ず時の農産物があるという、そういう場所になれば非常に有効ではないかと思えますね。

○A会長 土地、農地にしても住居にしても遊休化、空き家というのが一つの大きなトレンドになっていいますね。犬山でも実際に空き家が多くて、その対策をどうするかという話題が出ているし、農地も耕作放棄や相続しないというところも出て来ていますね。そうすると農地等の遊休化をいかに防ぐか、それから空き家になってもいかにリニューアルして活用出来るようにしていくか、特にその辺りのところは、来年度から総務省も非常に力を入ると行くことを言い始めているし、だから、一つ犬山で考えないといけないのは、いわば新しい世代が新たに家を持ったり、起業して土地を活用したりというような、そういうところに提供する土地や宅地というのも考えなければいけないかもしれない。一方で、あるものをいかに有効にするのか。今、Nさんが言われたのは、あるものをいかに有効にするかという観点に結び付いているものですよ。そうすると、例えば商店街でやっているパフェのイチゴでも、地元のイチゴとか地元の何かとか、量産は出来ないけれども空いているところを上手く使って、それこそ農業指導の方で農地を借りて事業化して供給をしていくという、そんなロットの大きいものでなくても地元産という地域の循環をつくっていく。そういうところで提供していくということにつながっていくのかもしれないね。だから、こういうところというのは先ほど仰ったように、規模を大きくするとか、いかに外部から魅力ある資本を持っているとかそういうことではなくて、地元のを、遊休化しているものを上手く活用しながら複合的に地元の魅力をつくりあげていくという考えがすごく大事ななと。

○I委員 今、Nさんが言ったのは一つのターミナルをつくる話ですけど、私は今高齢化が進んで農地が遊休地化していく寸前、あと10年したら跡継ぎがない、そういう状況に追い込まれているのが今井とか池野、栗栖とか、ああいったいわゆる中山間地と言うのかわかりませんが過疎地に次第になっていく、そういう地域なんですよ。今、若者を呼び込むチャンスではないかなと。例えば芸術家が今井に住みたいと。陶器をつくりたい、或いは絵画を描きたいとか、そういう芸術家もいます。それから、介護とか。いわゆる子どもの、今井の小学校なんかの運動会は非常に魅力があるという。なぜかとい

うと、地域みんなが参加する。老人も参加して小学生と一緒に運動会をやっている。そういう環境に子どもを住ませたい若者は結構いる。だけど、今井に住宅をつくることはできません。空き家もなかなか貸してもらえないのです。もう少し市が関与して空き家も全部バンクのような格好で借り受けて、中間的にあっせん出来るような仕組みを考えて空き家を使って頂く。或いは一つの地域を設定して、そこに若者の住宅をつくってもよろしいと。例えば、こんな建物ならよろしいと。そういうものをつくる。それから、もう一つは富山県がやっていますけれども、いわゆる多世代・多機能型の小さな拠点をつくる。交流施設です。これは福祉の予算とか国家の予算とかだいが援助や補助が得られるようですので、そういう施設を拠点として今井にポンと一つつくって、そこには地域の人々もみんなが集まって来られる。そういう風な一つの拠点をつくるということがこれからは必要ではないかなと。お互いに子どもも交流出来るし、老人と子どもと介護の身障者、色々な人が交流出来るそういう場所をつくれば、介護施設からも老人を連れてそこへ行って一日の間の3時間なり4時間なりそこで交流をすれば非常に活気づいた、老人が生き生きとしてくるのではないかな。そのような施設をつくってはどうかと。これは池野一つ、今井一つ、栗栖一つと、そういう風にこれも予算を付けてもらってこれはやってもらわなければいけないと。将来を考えたら農業も、農地を貸出しますと。だから、若者で日曜日に野菜をつくりたい、ならば農地を貸します。そういう風な仕組みをつくったらどうかと。

- 事務局 地域の交流の拠点とか、いろいろな人が参加するような行事、催しの必要性というお話だったのですが、Gさんはその辺りも含めて、これからの犬山に必要なものを。
- G委員 担い手ということと一緒に考えた時に、地域の方が特徴的な地域のものでその土地の人ないしある程度、そこの興味を持った人が担い手と共に育っていかないと、器だけつくっても住民とまた離れたものになってしまうから…。
- I委員 住民は必ず参加してもらわなければならない。
- G委員 そうですね。そこに上手い仕掛けというか、ワクワクする仕掛けか。
- I委員 老人でも「あなたちょっと野菜づくりが上手だから教えてよ」と言えるような交流関係をつくれば良い。農業だって潰さなくて済むんじゃないかな。
- G委員 一見違ったように思えるのですが、例えば「子育て支援の充実」と今言っていますよね。でも待機児童はゼロなんです。働いているお母さんでなくても入れる仕組みに保育園もなって来まして、こんなに充実しているのと思うんですね。片やたまた

ま小牧で、小牧は待機児童がすごく多いんですよ。でも、子育て宣言の動きでものすごく人口が増えているそうです。小さなお子さんを持った人の流入が続いているんですよ。どうして？と保育関係者に聞いたら、そこは無認可保育園が今はもう認可、認可、認可となつて追いつかないから、待機児童がすごく多いから。でも犬山はゼロだよって。何で来ないの？っていう話をしたら、子育て宣言のまちっていうのはお金もちろんあるんでしょうけれど、かなり前から中学校まで医療費がゼロになっていますね、小牧って。要するにお金があるまちだと思うのでそれも出来たり、あとは宣言をしたことで、ものすごく早く有名になった。子育て支援の応援がすごく行き届いているまちだよって。実際は私も住んでいないからわからないんですけど、片や犬山は待機ゼロで、結構色々な細かいことをやってらっしゃるのかなと思うんだけど、それが全然浸透していないんですよ。じゃあ何になつたと言ったら、見せる角度、呼び込む角度かなと思ったんです。具体的にはわからないんですけど、ちょっと飛躍すると芳川屋さんのイチゴパフェも、やっぱり呼び込む仕組みをしていらっしゃるんですよ。ご自分でSNS だったり、「恋子町だんご」も最近、あれも自分たちで拡散したって仰って、最初はね。一見すごく飛躍しているようだけど、見せる角度、その拠点をつくっていろいろな方と交流もキャッチと角度、そのまちに合った、エリアに合った角度とっていて、先ほどのNさんのものすごく良いんだけど、同じことをやっても何かちょっと厳しいのかなって。例えばものはあるけれど他に何かあるのと思ったら、やはり見せ方の仕掛けがあるのかなと思って。ミニトマトだって結構失笑じゃないのかもしれないですよ。

○N委員 初めて肯定的な意見を聞いた。

○G委員 見方によってそうかなと思ったんです。

○I委員 施設をある程度つくれば、それに需要があるということであればそういうものをつくろうという人も現れるんじゃないかと思います。だから始めはやっぱり大変だと思います。だけどそういうものを立ち上げれば、結構協力者は出て来るのではないかなと。朝市のメンバーをまず入れてしまったらどうかなと思うんですよ。

○事務局 ありがとうございます。Fさん、いかがですか？

○F委員 計画期間の残り6年での話をすると、今も出て来ていましたけれど、高齢化の話が2025年というのが良く言われるんですよ。団塊の世代の人たちが75を超えて来る、後期高齢者になる。ここがピークで踏ん張りどころなんでしょうけれど、ちょうど6年というところが入って来るものですから、やっぱり高齢者の方のことをもう少し拾

わなくてはいけないと思うんですけど、実はちょうど今、敬老週間に入りましてね、
「75歳の集い」というのをちょうどやっているんですよ。それでたまたま同じテーブル
に座らせてもらって話を伺ったんですけど、食事をしながらたまたまなんですけれど
も、城東地区の75歳の方、Iさんの言われたエリアの方たちだったんです。私はこの城
下町に住んでいるものですからとても新鮮だったんですけども、大体犬山に来て30
年ぐらいの方、サラリーマン時代にお勤めになって犬山に来られてリタイアされた、そ
んな方だったんですけど、今は結構一人だけで暮らしている方が意外と多かったんです。
分譲のお家を買って引っ越して来られたんですけど、本当のふるさとじゃないもので
から次の世代の人たちもまた出てしまっているんですね。そんなに大きな家じゃないか
ら同居も出来ないということがあって。だから夫婦が二人が残っているパターンが非常
に多いのです。意外と、ということでもないんですが、つれあいが亡くなっている方
も非常に多かったんですね。私の隣に座った男の人は二人とも奥さんを亡くしてみえま
して、ここ10年ぐらいで。ですから私は勝手に女の人の方が長生きして最後は女の人が
一人で暮らしているものだと思ったんですけど、統計的にはそれが一番多いのでしょう
けれど、必ずしもそうではないなど。だからあまりこういう数字的なものを拾っていく
と、全体は見えるけれど個別で見えない気がしまして、75歳のご主人たちの話はとても
不安を感じていましたね。将来に対して。今はお元気なんですけれど、例えば健康のこ
ととか、色々なことで不安を持ってみえるなどということを感じました。その不安はそれ
ぞれなんですけれども、そういった不安に寄り添えるかどうかわからないんですけど、
耳を傾けていくというのが何かまちの暖かさとか輪とか、そんな気がしましたね。ハー
ドの話とは全く違う話だったんですけど、私もこれからいく先の話ですから、子ども
の気持ちは分かってても先輩の気持ちはわからないものですから、どうやら人間は年と共
に不安になって来るんだなど。そういう気持ちを感じましたね。もちろん、そんなこと
は心を開かないとなかなかお話されることではないものですから、そういったことが話
せるような環境をつくっていく。さっきサロンのお話があったんですけど、そういった
思いがあって器をつくる。順番として。心から、魂を入れてから器をつくる。そうい
った風にハードを考えていけば、大抵とても良い血の通ったものが出来るのかなあと。

○I委員 今は老人クラブみたいなものも公民館かどこかでやっているんですけど、あ
あいうものも集まってとにかくガヤガヤやって、みんなお互いに多世代に渡って交流が
出来る、そういう空間があったら面白いなあと思うんですけどね。やることが無ければ

そこに行って、子ども相手に話しても楽しいんじゃないですか。

○G委員 私は学区内で歌声サロンをやっているんですが、おばあちゃんたちとコミュと協働でやっているんですけど、1階で歌声サロンを2週間に一度やってるんですね。ところが犬山市内から半分ぐらいみえているんですよ。30人ぐらいみえていて、呼びかけはするんですけどほとんど常連になって、1回300円ぐらいでお茶とコーヒーは出す。お茶と小さなケーキは出すんですけど、それで登録が50人を超えたんですね。それで元気なので腰が90度曲がった方がいて、お元気な方が草取りとかしてくれるんですよ。お掃除もしてくれて。そこに日曜日に子どもが来るし、あと上で子どもが勉強しているものですから、たまにクリスマス会とかを張ってあるとそこに来てくれて、やっぱり自然に集まるので、最初はお年寄りなのかお子さんなのか、例えば桃山台だったらすごく勢いのあるところですよ。そういうところで子どもの何か作って、でもそこがきっかけで多くの世代が集まるようになれば。

○F委員 あともう一つ、あるものを利用するんだね。さっきも仰いましたよね、折角あるストック、あるものを利用する。変な言い方だけど捨てる神あれば拾う神ありで、私にはこの郊外の団地住宅は不便でいらなくてこの辺の方は思われるかもしれないけど、子育てする人達にとっては魅力があるから、そういったマッチングをしていくのが良いと思います。さっきミニトマトって話があったんですけど、うちの息子の知り合いで各務原でミニトマトをやり出した子がいるんです。今30くらいかな。ここ2年くらい。脱サラみたいだね。それで、向こうで借りられたそうです。たまたまハウスも空いているのがあって。少し上手くいきだして、もう少し広げたいっていう話が出てきて、そうしたら各務原はニンジン通りとってニンジンを一生懸命やっているんですね、地域で。行政もニンジンに力を入れているものだから、ハウスはあんまり喜ばないそうなんです。だからそれで、犬山だったらハウスやれるところいくらでもあるんじゃないという話が来たんです

○I委員 そういうのを受け入れる。それを作らなきゃいけないんだね。

○F委員 やっぱり、そこに個性が出てきていますよね。各務原は凄いプライドとポリシーを持ってニンジンやっていく。犬山も何かそういうストーリーを作って。確かに手取り早く作るのも良いんですけど、そういうような方向までいくと、とっても良いかもなあと思いました。

○I委員 ちょっと話が変わりますけどね。学校の空き教室ってありますか？今。今井小

学校とか、栗栖小学校とか。

- 事務局 基本的に学校にないことはない。ただし、何年何組というクラスとして全て埋まっているわけではなく、そうでない部屋は「〇〇室」みたいな形で別の用途で利用しているということですね。
- I 委員 歴史文化、民族、関わっていますので、出来たらその地域の歴史文化。文化財。それから民俗のいろんなものが伝統的にあると思うんですけど、そういうものを陳列というか、展示する空間。こういうものが小学校の教室に利用出来るかなと。それで自由に見学できるような格好にして頂くと。土日開放してね。そういうところをやっぱり有効に使わないといけないなと思いますね。
- 事務局 ありがとうございます。ではちょっと切り口を変えますが、〇さん。地元で会社をやっていて、工業という視点で前回戦略なんかでも色々お話し頂いたという記憶があつてですね。そもそも犬山市、製造業というのが産業の中でも占める割合が一番高くて。圧倒的に高いんですね。そういう意味ではやっぱり製造業というのとはなくてはならない。一方で凄く覚えているのは、会社が地域に貢献している。祭りだったりいろんなもので。貢献しているというのも非常にインパクトがありました。ドーンと大縣神社にお金を出したりとか。非常に貢献度があると凄く記憶にあるんですけど。そこで、今だと福祉的な意味合いで地域との交流とか人の交流と言うお話が出た中で、商業のますますの振興っていうのはあるんですけど、工業っていうのを、これから犬山市の6年間、6年だけじゃないんですけど、どのように位置づけるのか、どのように地域に関わっていくべきなのでしょう。
- 〇副会長 ちょっと振りとは違うことを思っていたんですけど、本当に今日たまたまこの会議の前に役員会があつたんです。会社のね。そのときに、やっぱり遊休資産っていうのかな。それがやっぱり多いんですよ。会社の中でね。これはうちだけじゃなくて他の会社さんもそうだと思うんです。そういうものを多分お持ちだと思うんです。やっぱり税金は掛かるし、折角の土地や建物だし、そして、年だからと草刈代だけで年間100万円掛かっちゃうだとか、火をつけられないように凄く管理をしたりとか、このマッチングを、でも倉庫でも空き倉庫でもあるものですから、是非箱物をボンボン建てるんじゃないくて、まちの中にそういったものがいっぱい眠っていると思うので、こういうものの洗い出しとマッチングをやって頂けると非常に良いのかなと。農業の土地でもそうですよね。そのマッチングは同じことだと思うんですよ。今あるものをどんどんこうアピ

ールして頂きたい。ちょっと話が変わるんですけど、じゃあ魅力ある市、犬山というのを何で計るかといったその物差しはやっぱりその人口とか、交流人口ですか、さっき言った。そういったもので最終的には計って増えたから、ああ良かったねといったことになるんですけども。その細かいものが全部こういった施策になるわけですね。なので、この新しい何かをやることも大切なんですけれども、今の先程の待機児童ゼロということも私、知らなかったものですから。すみません勉強不足で。何かその、内向きの市民向けのアピールも良いんですけども、前も言いましたけれど外向けのアピールをもっとしていかないと、内向きより、今いる人達は良いんです。ちょっと、出ていかないぐらいにしておけば。後は外から引っ張り込むんだから、とにかく外向けの広告とかアピールとかですね。この辺がもっとももっと何倍もやっていかないと、商売みたいな言い方になっちゃって申し訳ないですけども、それをやらないといけないのかなという風に思っています。

○事務局 C先生をちょっと飛ばさせていただいて、Lさん。いかがですか。

○L委員 そうですね。今まで皆さんの意見を聞かせてもらって、やっぱり情報がきちんと発信できているのかどうかというのが聞いていて大事なんだろうなど。私も犬山に来たときに、草刈をするということになった時、鎌がどこで買えるのかわからなくて。農協に行けば買えるのかなと思って。そういうものがどこで買えるのかわからない。そういう情報があれば、また動くものもあるでしょうし、実際にそういう情報が動かないからこ他所の人を受け入れる体制というのは本当に出来にくいのかなとは思っています。

○I委員 そういうことに繋がっていますね。

○事務局 C先生いいですか。

○C委員 言いたいことはいっぱいあるんですけど、言い出したら多分、支離滅裂になるので言いながらいくつか言いたいと思うんですけど、まず資料3のこの表。ちょっと見ていて思ったんですが、宣言6のところで「防犯体制・環境整備」とか「災害に強いまちづくり」「防災体制の充実」ということで、これまで達成度100ということは、何かやってきたわけですね。

○事務局 目標指標がこの中にいくつか設定してあって、それが中間期での想定値との比較で○か×かで判定しています。ただ、それぞれの施策で指標の数が少ないものですから、指標が1つだけの場合、それが出来てると100%、出来てないと0%となります。多くても3~4なので、この表はあくまで参考としていただけたら、施策分野において、ど

んな状況なのかをイメージしていただく程度のものであり、100%だから十分です、などと言える根拠にはなっていません。

○C委員 まだまだ重要だと言っているわけですよね。これは、何が具体的に足りないだとか、ただ単に不安だからそういう風に答えているのか、ちょっとその辺を探らないといけないなと思ったのが、まず一つですね。

○N委員 達成状況の数値が示してあって、それを市民が充足しているかどうか。

○C委員 それだけの単なる一つの指標でやっているだけですよね。それが実感として伝わっていないというのは、なにか足りないということでしょう。それが何かっていうことは非常に重要ななと思いました。そしてもう一つは、満足度が特に低いもの。これも例えば駅周辺、先程のNさんの話じゃないけれど駅周辺とか市街地の整備、やってはいるんだろうけど魅力ある商業地の整備。こういったところがまだまだ満足度が低いって言うことで、確かに何というか。

○N委員 100%達成で、満足度が低いというのは、そもそも目標設定が…。

○C委員 単なるハードだけを取り上げて、効果じゃなくてただのアウトプットだけを押さえたって感じかなと思います。やはり犬山のシーンといいますか、犬山と言った時の思い浮かべるシーンみたいなものが必要かなと思いました。魅力ある。だから、ちょっとこの中で出てこないキーワードとするとランドスケープみたいな。景観行政団体ですよね。景観計画という非常に景観法って結構上位の法律があるんだけど、景観計画に繋がるような宣言というのが、パッと見ると分からないんですね。ありますか。

○事務局 宣言8です。8の上から3つで。

○C委員 景観づくり、これか。あるんだ一応ね。でも100%か。何をやったんでしょうかね。助成金ですかね。

○事務局 こども、指標の数が少ないので、100%だから良いということでは決してないと考えています。ここでは参考程度ですね。

○N委員 達成目標で100%になっている話だから。

○G委員 0か50か100しかないものね、これ。達成率よく考えたら。

○C委員 パッと犬山の素晴らしい景観というか生活のシーンが思い浮かぶような、そういうものをドンドン作っていくといいなと思っております。

○C委員 あと、やはりこう、観光、やっぱり交流人口、観光地なのでそれを上げたいんだけど、観光というとやはり食がセットなんですよね。ただ、桃の何とかも大事だけど

もう少しやって欲しい。犬山でこういうものが食べられるだとか。何かそういうものが
必要かなと。そういうのがやはり先程から仰るように、見せる角度とかその情報とかで
すよね。PRとかですね。色々、それもひっくるめてどんどんアピールしていかないとい
けないのかなと思いますね。そして、それをする人が必要。まちづくりは人づくりだと
思っているんですね、私は。だから、まずそういう、いろんなネットが使えたり、発信
出来たり、そういう引っ張っていく人づくり、これが大事かなと思います。高齢者の方
で一人暮らしが増えている、やっぱりそうなった時に生き甲斐というのが大事で。ある
研究がありまして、やはり何か活動している人というのは元気なんですね。まちづくり
のそういう活動に入ってもらったり、色々して、生き甲斐を持ってもらうという、それ
が重要かなと思います。後は仰っていたのは過疎の話なんですけれど、これも大分前に、
15～16年前に結構その過疎地で若者住宅政策というのが流行ったんですよね。住宅を提
供して、10年住んだら家と土地をあげますよと。それが若干成功したところもあるんで
しょうけど、この近くで言うと三重県的美杉村とか、奈良県の三重県との県境のところ
ですとか結構やっているんだけど、非常にそれが成功かどうか、僕にはわかりません
ね。畑も提供して土地も。一応は住んではいるんですけどね。

- I委員 栗栖の話ですけど、名勝木曾川、それからもう一つは国定公園。建てるもの
の規制があるんですね。条例があるんです、犬山の。
- N委員 自然公園法というのがかかっていますね。
- 事務局 自然公園法、それから文化財保護法では名勝木曾川という規制がかかっていま
す。
- I委員 とにかく向こう側を見るとね。木曾川の向こう側は賑やかな住宅街ですが、こ
っちだけは真っ暗な暗闇の世界ですがね。出来たらもう少し、何か福祉施設にしる、あ
の環境を上手く利用できるような施設が出来ないかということをおもうんですよ。有効に。
桃太郎神社しかないものね。それからキャンプ場ですか。もう少し何かあっても良いよ
うに思うけれどね。外から来たたくてもあそこに入ることが、住宅つくることが制限され
ていますので、そういうものもね、やはり特定地域を設定して市がそこだけは許可する
というような仕組みを作らないと、少しもあそこは人が入って来ない。隔離した空間に
なってしまって、自然公園と言えども私は利用性が、人が来ないような国定公園ではダ
メだと思いますよね。もう少しなにか利用できるような、そういう仕組みを考えたら
どうかと常々思っているんですよね。向こう側を見ると住宅でわあ一っとなってい

るんですが、こっちはもう本当にね、夜も暗い、一人も歩けない空間なんですよね。閉鎖空間です。

○N委員 去年も聞いた話ですよ。

○I委員 そうですね。それを言われてもね、ちっとも進展しないから私もやっきになって言っているんですけどね。

○N委員 そういうのは結構前向きにやってくれているんですけどね、やや失速気味ですが、民間で。そういうのを丁度今、先生が仰ったような、作りたいというのでちょっとずつ。

○I委員 地球子ども村でしょう。その人が僕の相談を受けてね。協力してくれと言われて、あのご夫婦に言われましたね。中部大学の教授、事務局長かなんか、その人と奥さんの。奥さんが理事長なんだな。小牧はそれを今やっていると聞いています。何とか成功させてあげたいね。

○A会長 僕も手短かに言いたいことを。やっぱり立場が変わると言いたいことがたくさんありますね。あまり具体的なことをね、本当に皆さん一般化して。次は簡単にね。今日Fさんの話を聞いていて、年を取ってくると孤独になるという話もあったんですけど、今までのまちづくりって、それからまちづくりの施策についての評価っていうのは、どちらかというと現役世代がバリバリに働いているとか、或いは子づくり中、子づくり予備軍、もしくは子育て中。ある意味、人間をつくるという過程において、現役の世代の話が多いのだけれど、そうではなくて、今後6年間はそこの部分については、もうこれは生活圏を保障するという最小限やらなきゃいけないことだし、やり方を工夫すればさっきの待機児童ゼロ、アピールの仕方を変えればということであれば微調整でやっていくことができる。根本的なところというのは、寧ろリタイアをして、つまりこれからの目標をどうするんだと。人生のまだ3分の1あるぞと。そこのところで見通しをまだ持てないでいる人達に、自分の能力の限度を、それから持っているお金の限度、それからもう一つは、さっきOさんも仰った、働いた場での人以外の、つまりモノ。機械とか工場ですね。それから住居、土地とか、そういうものの活用ってことを考えていかなければいけない。6年間ですから、人をやはり上手に活用するんです。特に来年から確かこれもさっき国の方の、確かモデル的に退職した世代が町へ登録をして、自分をどう活用して欲しいかということ、退職した世代全員から調査をする。やりたい人じゃなくて、或いは登録した人じゃなくて、全員が出来ることを把握して、企業の企業操業という場

面によってマッチングを上手くしていく。マッチングのところは大企業のOBが上手ですからね。それからお金。実際に現役世代ってそんなに上手く流用できるお金ってないですね。子育てでいっぱい。ところが、退職して年金しかないと言っても退職金があったりとか、それから他に株であるとか、色んな資産があったりするんですよ。本当は、現役世代の約5.5倍の資産を持っているのは65歳以上ですからね。ですからその人達が、どうそれを上手く活用するかという道がまだ十分に用意されていない。下手をすると別のところに持っていかれてしまう。NISAで良くわからない活用をされてしまって、だから犬山の小さな経済をつくるためのファンドを拵えて、そこに積極的に提供して貰う。これは裏の管理の話で出たんですけど、全国に求める以前に犬山の人達にもっと支えてというような呼びかけをしなきゃいけないと思うんですね。それが、昨今は、元本は保証する、返すときにはさっきの市街地の美味しい桃だとか、いろんな形で還元する。つまり、お互いに顔の見える関係が出来るところに引き寄せて貰えるということが凄く孤独を克服することになるのではないかと思う。それから、さっき言ったモノの登録ですね。機械、特に震災地域、東北に調査に行っていたんだけど、中小企業の製造業の、特に食品加工業を復興する時に、再生する時に一番ありがたがられたのが、愛知県から寄せてもらった食品加工機械。これが一番役に立ったと言われた。その次が船という風に仰って、産業大国愛知だからこそ様々な機械が実は遊休化していて、それを送って貰ったことによって、世間の沿岸地域の中小企業の生産は物凄く助かったという現地の教えが。だから、やはりOさんが仰ったことはその通りで、それがきちっと登録されていないということ。ですから、人、お金、モノ、これを統合して、場合によってはファンド化して、小さな犬山経済をつかっていくために活用していく。それが人の孤独感をなくしていくことにも繋がっていくし、モノの遊休化をなくしていくことについても繋がっていくし、ということも聞いていて思いましたね。それはまたちょっと上手く書いて渡します。

○事務局 あっという間に時間は過ぎ去ってしましまして、そろそろまとめに行かなければいけません。最初にお配りしたこのカードですね。こちらに書き始めて頂いてよろしいでしょうか。そのあと、一言ずつというかコメントをいただきたいです。順番に書いていることを読んで頂ければと思いますのでよろしいですか。皆さん、書きながら結構ですから。

○N委員 僕はもうさっき言ったことです。具体的に提案しようと思っています。散々気

合い入れても総合計画に載っていない、出来ませんと言われますので、ここで言わなきゃどこで言うんだと思って明快に。

○O副会長 私も、さっき言ったこと二つです。

○C委員 僕もさっき言ったことなんですけれど、力を入れたいのは人づくりかな。また、その支援。とにかくですね、犬山で住むイメージを発信したいねと。

○事務局 住宅地としてのイメージですか。

○C委員 そうですね。こんな良いことありますとかこんな暮らしが出来ます。そういうのを。

○事務局 シーンが見えるように。

○C委員 シーンもそうだし、シーンを書いていませんけれど、ソフト的なことにちょっと重要なと。

○G委員 今ある魅力を、もう一回見せ方を変えて、とにかく安心するという。それから地域特長のある拠点をつくること。でもつくっても担い手がないから、両方を実行型でモデルパターンは何か一つの地域でやってみるという。で、市民の本気力っていうのがいるのかなと思って。お金がないですもんね。だから市民の本気力、さっき市民活動している人の割合が落ちているというのは驚きでした。

○F委員 さっき言ったことを書きましたけど、高齢者のストック。これはパワーと知恵という意味のストックね、人間としての。それを使わせて頂くということで。後、高齢者の成人式をやったらいいなと思っているんですよ。今、小学生では2分の1とかやるでしょう。3回目の成人式とか。全く生き方が変わるわけじゃないですか、企業人から。違う世界に飛び出していくその宣言。こういうことをやりたいとか。不安もあるかもしれないよね、ある意味。だから高齢者の成人式、そこで夢を語ってもらう。

○N委員 空き家バンクとかは相談するとまだデータが出来ていません、いつHPが公開されるのですかと、相談は本当に多いですね。多いけどお金がない。金銭的な支援というのを…。

○事務局 それは移住しやすくする、受け入れるための支援ということですか？

○N委員 住むだけじゃなく、例えばそれをゲストハウスにしたい人も周辺にはいる。でも、お金持っていますという人は少ない。

○I委員 志はあるけれども。お金はないということか。

○N委員 どこの町にも共通している課題があると思うんですけどね。上手くやれば一

気にできると思う。

- 事務局 書いていただいたものにマッチングが大事とありますが、マッチングとはモノだけじゃなくて人材も、ということですね。最後は、人ですよ。それをどうやって上手く繋げていく仕組みをつくることができるか、というのが課題。
- N委員 情報はやはり、信用のある人がとりまとめて、その地域ではこの人を頼りにしたらいい、とか。
- L委員 思ったのとは違うかもしれませんが。やっぱり情報が行き渡るということで、本当に観光というのは他の市町にはなく凄くあると思うし、特産品もあるし、なのに売り方が良くないということで知名度がなかったりとかというのがもったいないなと思います。知名度を上げていければ、住もうかなという選択肢の一つに上がると思う。そういうことが、まず大事だと思います。
- I委員 私はさっきから言っているんですが、小さな拠点づくりというか多世代多機能型のそういう色んな人の集まるコミュニティっていうのかな。そういうような場所をやはり設定して欲しい。そこへ行けばいろんな商業活動もそこでされるというか人的交流が出来る、そういう場所。これが特にさっきの三つの地域ですけれども、そういうところに欲しいなと思います。それから、他の人の意見にも出ていましたが、人材を登録してどういう風な人材があるか。それを有効に使っていく方法を考えないといけないかなと。或いは遊休資産、空き家、空き教室の利用だとかそういうようなことも必要ではないかという意見でございます。
- 事務局 皆さんありがとうございました。お時間を越えてしまいましたが、それではこれにてAグループの協議を終わらせて頂きます。ありがとうございました。

【Bグループ】(テーブルB)

- E副会長 こっちのグループ、欠席が多いんですかね。6人で。何となく良い感じで喋れそうなサイズ感ですね。これは、一人ずつありますか(現行の施策の全体像)。
- 事務局 はい。良いです。お一人ずつお持ちください。一応手元に。
- E副会長 7名ですね。こちらのグループ。それとあと何か施策。
- 事務局 最後にまたシートを。
- E副会長 そうですか。わかりました。

- E副会長 じゃあこれがまず。そうですか。今のこの6年間の施策の検討資料ということで。前期計画の中でまとめてあったものですね。
- 事務局 そうですね。前期計画、現行の総合計画本冊に書かれている今の施策の全体像です。
- E副会長 前期計画の中でまとめてあったものを、もう少し見やすくして頂いていると思いますので。これを見ながら、それぞれの皆さんからこんな施策をやったら良いんじゃないかというお話を頂けたらと思います。前回の記録がありましたよね。結構面白いのが色々出ていたと思いますけれども、それを膨らます形でも良いですし、新たなものでも良いですけれども、今回はお出し頂いたので、3回目4回目、段々骨格を作っていくことになりますので、前回お話頂いた内容も、今日もう一度、更に肉付けをしてお話し頂きたいと思いますので、お願いします。では前回の会議録を見て頂きながらの方が良いですよ。
- 事務局 そうですね。資料の2にまとめてあります。
- E副会長 資料の2で。それぞれのご発言があると思います。これを見て、こういうものということですね。さっきの交流人口なんかまさにそれですけどね。交流施策をしていたということでもんね。
- B委員 そうですね。総合戦略の時からも言っているんですけど、オールインワンパッケージのまちづくりはやめましょうという話で、何でも揃えるというのは結局ゼロサムで人を取り合うことになるわけですよ。育児施策が充実していればそこで増えるわけではないけれども、若い人達が移り住んで来て、結果的に子どもが増えるみたいな。隣の地域と喧嘩して取り合うみたいな、そういうまちづくりはいかがなものかと。やっぱりまちの特色を生かして、そして良いところ、さっきも言ったけれど、住んでいて名古屋なんか働きに出かけて、そして子育てしやすいという点でそこに住むという、そういう人がいても良いわけですよ。そういう良いところを活かして周辺の地域と上手く調和のとれたまちというのは犬山としてはどういうことなのか、ということを考えることが何でもかんでもマッチョなまちづくりにする必要というのは、私はあまりないんじゃないかという気はしています。そして、この満足度と重要度の話なんですけど、やはりこれは市民の方のお考えということで非常に重要だし、考えていかななくてはならないことかなという風に思います。特にこの重要度が高いにも関わらず満足度が低い。この5〜6年間でほとんど改善していないという施策がいくつかあったと思います。その辺が

一番大事なところだと思うんですね。しかもこれっていうのは、やはり地区によってかなり差があるという。これもやはり重要なところで、さっきも言いましたけれども、地区によって課題というのは様々で、それをボトムアップとしてですね、積み上げて、そしてそれぞれの地区において、不十分な点というのを改善していくような。それぞれの地区の実情にあった施策を考えていかなければ、犬山全体でそういった施策が大事だよと言っても「いや、うちのところではそうでもないよ」ということになりかねないんじゃないかなと思って資料を見ていたんですけども。

○E副会長 私はあまり地域の差が読み取れなかったんですけども、地域でかなり差があるというのはどういうことなんでしょうか。ここですかね。満足度が特に低い地域とか、重要度が特に高い地域とか。

○B委員 市民意識調査の4ページの下に地区ごとにより特徴があります。犬山地区は全体でペタっとした感じ、城東が商業地区の空洞化で満足度がマイナス1.64と著しく低かったり。羽黒がやはりこれも商業地ですか。楽田が道路だとか橋の満足度が低い、池野地区は全体的に満足度が低いとかですかね。やはり地区によって特色があって、具体的になぜなのかってところですね。ボトムアップで具体的にどうなんですかというところの中で、やはり施策というものを考えていかなければ、施策の中身もどういうものなのかってことを考えていかなければ、結局この5年たっても満足度が改善していないという、そういうことになってしまうんじゃないかなという風に思っています。

○E副会長 市全体の施策と地域別の施策を考えていけばありじゃないかということですね。

○B委員 よくこれは補完性の原理と言いますけれど、課題が地域によって全然違うわけですね。それを地域が地域の努力として具体的にどういう風に頑張ったのか、或いはそれをどう対応しようと思ったのか。これは必ず出てくると思うんです。子育てが大変な人がいてそれをなんとか地域で助けようとか。そういう組織が元々あると思います。それが機能してなんとか対応しようと思うんだけど、結局それは対応しきれないところが出てくるわけですね。それをカバーするのが更に上の市の施策であり、それが叶わないところは県だとか国の施策という。そういう施策というのは非常に重層性を持っているわけで、地域の課題というものを地域の組織なり地域住民がどのように改善しようとして、それが全体がどこにあって、そしてそれを改善するために市や県の役割はどこにあるのか。全て市がやろうとしても結局満足度は高まらないと思いますし、一応4つ

の目指すべき方向性とかがあるんですけども、それを果たして実現する上で市の一本の施策で出来るのかな、当然私は出来ないと思うんですけどね。そういう風に考えています。だから具体的に棚卸をするのであれば地域の課題、地区地区による課題と、それが地域の様々な自主的な活動によりどの程度改善が図られているのか、現実的に。しかし、それが不十分なところを市がどのような形で施策として対応しているのかということです。そういう重層的な施策のあり方というのを見て行かないといけないんじゃないかなと思います。ちょっとあまり大きな話で恐縮なんですけど。

○E副会長 今のは施策の方向性を考える上で凄く重要なことで、補完性の原則ということでもまず地域で出来ることは地域で行っていくから、恐らくこれはそれぞれの地域で課題に差があってでしょうね。でもそれは地域でまずやるというのが第一原則だと思うんですね。今私たちは市全体として何をやるかというのを考えているわけですので。そうしたら、恐らく施策にその方向性を入れるというか、補完性の原則のしくみを作っていくようなものですよね。それがいるのかなと思ってお聞きしていたんですけども。

○B委員 まさに仰るとおりだと思います。現実的にきっとあると思うんですよ。取り組みというか、組織的にね。

○M委員 確かに私も、これを今まで読んでいてちょっと現実離れしているところがあって。今、B先生が仰られた地区別の課題というのは、ああそうだなと思って。兵庫の川西市が確か地区別の総合計画を作っていますよね。中身はあまり読んでないんですけど、そんな時間はないので、そういう風に地区別に落とし込んでいければより現実的な総計になっていくと思います。

○E副会長 今の問題意識としてですね。まず、地区別に課題が違うわけだから、ただそれを今回どういう風に進めていくかということなんですけれども。最近やっぱり総合計画を作る時に、地域別計画を付けるというのは結構流行っています。総合計画で付けているんですけども。私見ですが、勝手に一部の人が作っているのが一番問題だと思っているんですね。やはり地域の人達が自分達で作ってこないといけないから、私は他で作った総合計画は地域別計画をどうやって地域の人で作っていったら良いかという方向性だけを示させて頂いたというか。後はこういうデータを公開してですよ。尚且つ地域でもまた課題を洗い出せば出てくるはず。そういうことをこの後、やって頂けるようにするというね。それを市全体としては、きちんと総合計画の見直しのところに入れる必要があるかもしれないですよ。今その地域の個別計画を書いてしまうというよりは、

地域から作ってくるという。そういう仕掛けをしていくということでしょうか。

○B委員 アンケートをクロス集計して地区ごとの課題を明らかにしたというのは非常に大きな成果だと思うし、本当はボトムアップで地区の中でワークショップをやって、うちはこんな課題なんだ、しかしこういう風にやってきたんだけど中々難しいよというところがクリアーに一つ一つなっていくと、これは施策としてもターゲットが絞りやすくなっていくとは思うんですね。

○E副会長 確か総合戦略の方で自治基本条例みたいな仕組みを作りたいというのは実は入っていたと思うのですが、その地域をどうやって作っていくのかという中身のところはあまり明記されていませんでしたよね。条例作りましようくらいの感じでしたから。寧ろ地域の人達が自分達で課題を捉えて、その改善策を自分達で出してみえて、それをシェア、後押しするということですよ。そういうことでしたら今の時点でも。どうですか。結構今のは大事な意見な気がするんですが。

○K委員 僕は基本的に卒業論文とかでもNPOとか市民団体とかのお話を書いているんですけども、この前のタウンミーティング、フロイデでやったやつとエナジーアリーナと両方行かせて頂いたんですけども、やはりそういう市民の活動というのは自主性がない限りは絶対に進展しないと思っていて。時間の問題ももちろんあったんですけどタウンミーティングが終わった後に、その人自身が何をやるかというところには全く参加者の目に向いていなかったんで、市がやっている今までのものが少し変わったのかなぐらいな感じに多分受け取られていると思うので。先程言われたように、地域別にもうカチッと決めてしまうのは僕はどちらかと言うと反対派でして、カチッと決めるのではなく全体としての仕組みをしっかりと作るという面に凄く賛成で、そしてその後は市民の皆様の、特に今でいうと犬山市でいうと条例の名前は忘れちゃったんですけど、市民活動のやられてる方の登録されて恐らくやっていると思うんですけど、そういうものからしっかりアプローチできるような、自主性を高められる仕組み、またそういうのを行政としては情報公開であったり、もっと若者とかもちろん僕はそういう研究をしているので知っていたんですが、市役所とかでお会いした方とかも誰も知らなかったんですね。そういう面を積極的に公開して、若者っていうのは暇なんですね。簡単に言ってしまうと。お金を求めているというか、今はインターンシップとかいろいろ無償で1カ月働くとか余裕でやっている業者もいるわけで。機会を求めていると思うんですね。そういう機会をフルに活用して少しだけずるくしてもらおうんですけど、ここにもあったコミュ

ニティ活動とか、さっきの資料4の3ページなんですけれど、現在、市民活動を行っている市民みたいところが10.4から8.7に下がっている。これは自主性の資料だと思うんですけども、この下のお祭りなどへの参加している市民が減っているというのも、これもコミュニティの欠如だと思うんですけど、そういうところも積極的に絡めながらやっていく必要があるのかなと僕は思います。そういうことが先程言われたような個々の区別の課題というのを解決する1個目になるのかなと思って、僕はそう思っているんで今NPOの研究員をしているんですけども。今の市長さんが選挙の時に言っていましたけど、市民力というものを凄く高く評価していて、あれは多分主観だとは思いますが、そういった部分をやる仕組みというのは、まだ僕も知識が浅くて今勉強中な身ではあるんですけども、何かないのかなと思って日々模索している最中でもあるんですけども。

○E副会長 地域の人が地域の課題を解決することが出来るような仕組みを作るとというのが市の政策であり、その地域の人たちの自立性や意欲の引き出しというものも市の政策として必要であるという、そういう意見でしょうか。

○K委員 市民の、よく協働と言われるものも見せかけになっている部分も少なからずあると思っていて、そういう部分をもっと巻き込んで意欲をかきたてるというか賛否はあると思うのですが、地域コーディネートとかよく言われていますけれど、そういった人たちを活用したりとかという必要があるのかなと僕は思います。

○E副会長 施策としてクッキリしていますよね。どうですかHさん、地域づくりについて、女性の目線から。

○H委員 そうですよ。こういうお祭りなどに参加している市民が本当に減っているとか、コミュニケーションの場に出ている人が少なくなっているというのは確かに感じるんですけど、私達が実際に公園の安全点検、明日もやるんですが、安全点検・防犯点検というのを年に1回しているんですね。私達、7つのグループが2~3箇所あるんですよ。そうすると犬山市内で21箇所プラス1箇所大きい公園があるので、それまでは市の市役所に提案することがなかったので、ここ数年提案しているんですよ。そうすると公園が変わってくるんですよ。そうすると私達がやっているというボランティアが目に見えて返ってくると、ちょっと意識が高くなって「あ、私達がやっているから変わったんだ」って、それまでみんな「こんな公園点検をやって何になるのよ」という、私達の周りの女性がたくさんいたんですが、でも「ここが変わったでしょ」「こういう風になっ

たじゃない」とか、本当に意識を変えてくれることでもっと私達の意識が向上していつて、こういうところに参加するとこういうことがあるんだっていう、そうすると発言、意見がそういう目線にいつてくれるようになってくる。女の人達も。それと、やはり仕掛けをしていく人間がいないというのが一番の問題だと思いつていて。たまたま私はそういうところでずっと動けていたから良いんですけども、皆さんある程度するとお仕事に出て、そうするとこういうところに参加してくれる女性が本当に少なくて、動いてくれる方がいないという、そっちの方の、その人達を育てていく仕組みもしていかなくてはいけないのかなと。私は人を育てることが大事なのかなと今思いつていて。本当に、ハードの面はそういつたところにお任せするのでソフトな面でやっていけるようなことが出来ないのかなと思いつておりますが。

○E副会長 今の公園の話で、福岡県の大野城市というところでは公園をどのように活用するかというのを市民を5人集めて提言出来るようになってるんですよ。それで例えばある公園はお年寄りの人が市民菜園のようなそういうことを作っていたりとか、ある公園は子育て中の人たちが来やすいようにど真ん中に東屋みたいなものがあって日焼けしなくてもいいように作ってあるとか、それは市民は提言するんだけど、改修費用は市が出すんだけど、維持管理はそこの人たちがやる。これも仕組みの一つなんです、要するに。こういうことで具体的な皆さんが自分たちで解決しようとする力とか、引き出したりとか育むということをする。こういう仕掛けがないとなかなか難しいんじゃないのかなというのはいていて思いました。

○H委員 各務原の公園に健康遊具が置いてあるということで、それに視察に行ったりとか市長にその話をした時に、犬山の山の田公園でも健康遊具を置くので一緒に話をしましょうということで、公園緑地課の方とこういうものを入れますみたいなアンケートとかいろんな協力をさせてもらって、本当に私達が今まで地道に何十年とやってきたことが少しずつ目に見えてくるということが、やはり皆とても大切に思いつていて、それが本当に子ども達に安全に遊んでもらえる公園。それが子育てにも繋がるのかなって。そして子育ての立場として、公園の点検をしているんですけども。本当に、まとめる人がいないというのに日々悩んでいますけれども。もう一つだけで良いですか。愚言かもしれないんですけども、『住み続けたいという人』という市民の割合というのが増えてくるのは確かにそうなんです、実際に犬山に住んでいる人達は確かに住んでいるんだから良いと思いつていて、多分この数字は上がっていくんだと思うんです。そうじゃなく

て、住みたくないという先程B先生も言われたけれども、どうして住みたくないと思っているのかという、そっちの良いことはもちろん夢を持ってこういう施策をすれば良いんですが、やはり問題点も取り上げて、そちらの方をもう少し改善するための施策を考えていかないと。それで今日はインターネットのアンケートが出てきたので、これは面白いなと思って見ていたのですが。インターネットで首都圏の人とかの意見が色々あった。この資料が出てきた。この資料が出てきていたので今日ちょっと、それを見た時に「あ、こういう資料が欲しかった」と思ったのですが。

○E副会長 忘れていたやつですね。さっきKさんが言われたみたいに、3 ページのところの数値が低下しているものって、結構マンパワー的な部分が多いですね、非常に。どっちかと言ったらね。これが下がっていくのはなかなかつらいですね。

○B委員 まさにこれを上げていく施策が必要なんですよ。それが施策の実効性を担保するし。施策の効果だとか、要は本来いらない施策なんですよ。こういった活動により掘り上がってくるとか、いろんな効果がありますし。まさにこれが地域づくりの結果だと思いますね。

○E副会長 これが多分重点施策なんですよ。

○B委員 目的だと思いますね。

○H委員 人の考えでコミュニケーションとか色々出てくる中で、ここに魅力のある商業施設がないということで満足度が低い。そういうことも地域で話し合える、そういうコミュニティの中で話し合ってくると、それがもっと上に上がってきてという風に繋がっていくのかなど。

○E副会長 自分たちで作っていくという事ですよ。

○H委員 今多分、不安だけ多くこうやって出ているからあると思うんですけど。ごめんなさい。

○E副会長 さっき言って貰ったことですよ。それはかなり感じているということですね。

○K委員 そうですね。人口流出とかの話も序盤に質問とか出ていましたけれど、前回、前回じゃないな。総合戦略の方で61,000で減少したもので目標値を設定するといったことをしたと思うんですけど、その中で市をまわしていかないといけないという中で、記憶が曖昧ですが30代の女性が増えて20代の女性が大幅に減っているという表があったと思うんですけども、自分が大学4年生でちょうどその時期になるんですが、やっ

ぱりほとんど出ていくんですね。やはり特に犬山地区に住んでいる人だと思うんですけど、城下町にずっと育ってきて愛着があったりとか、犬山の施設でバイトをしたりとかという人が多いんですね。僕もリトルワールドでやっているんですけどもそういう方が多くて、愛着はあるけど就職するとなると、大同メタルにいく子もいるんですけど、それ以外だとやはり出てしまうので。僕はどちらかと言うと市民活動推進派ではあるんですけど、産業の誘致というのも少なからず、業種がこれまでの例えばオール工業みたいなのは変わってくると思うんですけど、必要になってくるのかなと思いました。それがもしかしたら IT になるのかもしれないし、今やっている第4次のロボットとかああいう系統になるかもしれないですけど。そういうものを、あんまり僕は詳しくはないんですけども、市民活動のみに頼るのもちょっと危険かなというのは僕自身感じているところがあるので、そういった施策も必要かなとは思っています。

○E副会長 今の話で一旦整理すると、この表を見て頂くと現在の施策の一覧みたいなものなんですけれど、例えばさっきK委員に言ってもらった市民活動という部門だと「市民協働」というところがありますよね。この施策を見たら、これじゃあダメだったと明らかにわかりますよね。今議論していたものと。これをやっぱり見直しということになるわけですね。それから例えばさっきの、数値が下がっていた「健康」というのであれば、「健康」のところを見たらですよ。健康づくりの増進、保険サービス、感染症対策とあるんですけど、行政が粛々とやるものが入っていますよね。今から高齢化社会に向けてどうかだとかですよ。だから今出た議論で、この施策をもっと刺激的な言葉にするとか、そういうやり方もあるのかなと思ったんですね。私が見ていて思ったのが「働く」というのが少ないですよ。今の内閣は働き方改革と言っているんですけど、高齢者の方も女性の方もですよ。働いて経済的価値を出して、地域を元気にするところで、非常にそれが薄いですよ。やはり年代的に。

○B委員 宣言4のところを中心になるんでしょうけどもね。

○E副会長 そうですね。ここが農業、商業、工業、観光、勤労になっているんですけど。勤労という表現になっているんですけど、もっと地域で生活に必要なサービスをみんなが作ってきたりとか、そういう積極性がないですよ。コミュニティビジネスとか。

○B委員 やっぱり仕事って戦略の時にも言ったんですけど、外からお金を稼いでくる産業と、都市の中で市民サービスを支える産業に大きく2つに分かれるんですけど、両方もこれまでの考え方ではダメだと思うんですよ。さっきも仰ったように、工業誘致、

工場誘致という形での産業振興はもう本当にC先生も仰っていましたがこれも限界にきていると思うんですよね。まだこの目標の中に入っていますけれども、もうそれは私は勘弁して欲しいという感じを受けているんですよね。もっと、例えば地域にある中小企業ですとか、或いは規模は小さいかもしれないけれども特産品開発、地元の原材料を大事にしているところとか、やはりそういったところをクローズアップする。量や規模は小さいかもしれないが永続的、持続的にかつネットワークを使えば、ネットワークを作れば、まだまだ新しい価値を生み出せるような、そういう中小企業を代表されるようなものをもっとクローズアップしていかなくちゃならない。もちろん書いてありますけれどもね。中小企業振興と書いてありますが、やはりネットワークを作り出すということは中小企業の場合は非常に大事なんですよね。そこで総括的な取り組みが始まるかどうかで、中小企業が浮くも沈むもこれからは決まる時代だと思うので、例えば中小企業ネットワークを作りますとか、そういうことでも良いし、あとやはりそうですね、働く場所という意味では課題はやはり高齢化社会だとか、或いは地域社会の衰退とかを見据えてそれを解決するようなサービス産業というのをどう想定するのかという課題解決的な、しかもそれは守りではなくて産業として攻めていくような課題解決的のような考え方が必要だと思いますよね。ちょっとそういう発想が宣言4ではみられないかなと僕は思います。4と5はきっとこれ結び合わせられるものだと思いますね。

○E副会長 特にシニアとか女性がどのようなサービス産業を創出してくるかとかですよね。そういう部分が明確に出ていないんですよね。従来の施策が並んでいるということですよね。

○B委員 まさに縦割りなんですよね。もっと4と5を大胆に結びつけて新しい産業を作りますとか女性・高齢者の活躍する場を作ります、みたいな。そういう攻めるようなね。

○事務局 実は今日、こういったものを用意させて頂いていまして。配らせて頂いても良いですか。今の皆さんでお話し合いをして頂いて、最後にこれだっというものを皆さん書いて頂いて、発表して頂きますので。

○E副会長 これは一人ずつが書くんですかね。

○事務局 そうですね。一人ずつで。

○E副会長 もう大体まとまっているんだけどね。

○事務局 今の流れからですものね。それでも良いと思いますし、でもやっぱり今の流れだと「実は私こう思っていた」とかあるかもしれないので。50分までなので時間を見な

がらやって頂ければ。

- E副会長 そうですね。でもここなんか、かなり噛み合った議論が出来ていると。6人という数もあるかもしれないけれど。
- J委員 すみません。市民活動が出来る環境ということなんですけれど、これってかなり余裕のある方、時間的、金銭的、自発的な意欲のある方が初めて行えると思うんです。
- B委員 仰るとおりだと思います。
- J委員 日々の本当に生活でいっぱいというか、仕事して子どもを育ててということっていっぱいという人の方がきっと多いと思うんですよね。そうすると、発想としては助けて欲しいというか、お金でも制度でも具体的には子育てのことしか思い浮かばないんですけども。それがあって初めて犬山ってこんなにサービスが充実しているな。じゃあ自分も余裕が出来たら少しでも何か参加したいなとか、自分も何か出来ないかなという発想になっていくんじゃないかなという気がして。今ですね、ずっと、凄くハイレベルな生活環境を想定してのお話じゃないかなという気はしていたんですけども。
- E副会長 市民活動の一応それなりの専門家のつもりですので、今の意見というのは私は凄くお聞きしてありがたいなと思うんですけども、一般的なイメージとして市民活動ってボランティアといったイメージが定着しているんですよ。市民活動＝ボランティアというのが多分定着しているんだろうなと思っているんですね。でも市民活動って必ずしもボランティアだけじゃないわけですよ。寧ろ市民活動というよりは私は社会課題を解決するとか社会性重視とかね。そういうことを考える人がどのくらい増えてくるとか。ただ中小企業も利益重視で、ただ利益をあげるだけではもうダメだっていうのは、もういろんなところで言われているんですよ。それは利益を上げるのは手段だから、地域コミュニティを良くして地域と共存共栄するのが重要なんだということを言われているから、今の意見はとても大事で寧ろこういうような表現ではなくて、もっと違う表現をした方が良いのかもしれないですよ。ボランティアはボランティアで置いておけば良いと思うんですけども、ボランティアの括りはあるんですけどもハイレベルな人達ばかりではないはずだから。中小企業って赤字だもの、ほとんど。税金払っていない。
- H委員 ボランティアって、やはりやりたいという意識はあるけれども実際は出来ない人もかなりいるんですよ。
- B委員 そうそう。その結果なんですよ。

○H委員 そういう意識を持ってらっしゃる方はたくさんいると思いますが、実際には出来ない。

○E副会長 それはなぜ？時間の問題？

○H委員 時間的にないっていうとか色々、多分いろんな問題があるんでしょうね。それぞれの家庭で違うところがあって。だから、やりたいと思ってもやれないっていう人も実際にいるということも、やりたいんだったらやれば良いじゃないという考え方ではなくて、やりたいと思いながらも中々出来ないという、本当に、何と言ったらいいかな、こう出てこられる人間はいいけれども、本当に思いながらも実際にこう話をすると「ああ、私それをやりたかったんだ」という人達も出てきたり「じゃあ時間のある時にやればいいんじゃない」という声かけも出来るんだけれども、さっき言った情報の話じゃないけれども「私ができる分野でこういうことが、大きなことじゃなくても私はこういうことで何かに関わっていけるんだ」ということの情報を教えていくということも必要なので、一概にだから上手く言えないんですけど。

○E副会長 選択だからそれは強制するんじゃないけれど、ただ、今私が言ったのは市民活動＝ボランティアという発想はやめた方が良いよということを行っているだけで。

○H委員 それはわかります。

○E副会長 あとは選択だから、例えば一生懸命働いて余暇でボランティアするのもよし、非営利組織として有給職員として活動するのもよし、CSR で地域課題のためにというのを重視する動きもあるから、それも皆がたくさん選択肢があるというのが大事というか。いろんな選択肢をたくさん作ってあげられる方が良いのかもしれない。今言ってみていたのは、それよりもっとですよね。生活保護が必要な方たちとか、そういう方たちの方が。

○J委員 そうですね。そこまで、という言い方はちょっとよろしくないと思うんですけども。自分が市民活動をしたいけれども、関われる場所がないとか関わり方がわからないということよりも、もっと本当に日々の生活のことを考えているの方がたくさんいらっしゃるんじゃないかなという。ここにいらっしゃる方がそもそも自発的に参加意欲のある方じゃないかなと思うんですけど。

○K委員 凄くわかります。ずっと親が両方共働きで、最終的に離婚したので今は片親なんですけれど、共働きの段階ではやはりそこまで回らないですね、本当に。全然回らないんです。本当に今の生活で精一杯で本当その状態なんですよ。僕もやっと大きくなっ

で自分で大学生になって考えられるようになって、そこでやっと「こうやって今までお世話になったから地域に恩返ししたいな」とか。いろんな思いが出て来たわけなんですけれども、母親もやっと僕が大学生になったぐらいでやっと自分の将来を、本当は何がしたかったのかとか思い出した時にやっと気付いたので、最初に言われてるのは多分、子育ての問題とか、そっちだと思うんです。で、僕が育っていた時もそうでしたし、Jさんが恐らくされていた時も同じで、犬山がまだあまり子育てに熱心ではなかったという失礼になっちゃうんですけど、その状態で医療費とかも今中3まで延びましたが、掛かったんですね、僕。同じ状態だと思うんですよ。同じ状況であったのでその考えが多分入っちゃっているとね。僕もそうですけど、やっぱりその段階をとというのがあるのかなと思っていて。でも、この前の広報にも出ていたんですが、犬山で2人目の補助だったかな、何かが増えていて、最近すごい子育てが熱心になってきているなと思って。やはり30代女性が増えてきたこともあるのかなと。そういう面は、僕が育ってきた時よりかは十分改善されているので良いのかなと僕はちょっと思っていたんです。僕の時は、あの時よりも支援してくれるし、後は自分でいけるんじゃないかという僕なりの、何というか思っていたので、一旦僕はちょっと引き止めたんですけど。僕も何年前だったら多分そのような質問をしたと思います。今も凄く頑張ってくれてありがたいなと僕は思うので。今の人達は前よりは楽だろうなと思うので、今後6年間の見直しとしては、今改善してきている部分なので、課題の部分じゃないかなと思って取り下げたというのが僕の経緯です。今日は本当に大事な視点だと思います。子育て世代が増えないことにはこの先の未来がとかいう話になってきますので、大事なことかなと思います。

○E副会長 この議論、面白いけれど時間があまりなくてすみません、あと6分くらいしかないから、ちょっとそれぞれに、ここに施策を書いて頂いて良いですかね。最後にそれを皆さんで共有するという形で。3分くらいで書いて頂いて良いですかね。

○E副会長 この議論面白いよね。でもね。もったいないな。最初からこの議論でやっちゃった方が良くないんじゃないの。基本構想後でいいじゃんとか言って。ここが決まらないと。

○事務局 そうですね。問題はそこですね。

○B委員 もう原案まで出来ちゃったし。

○E副会長 あれはちょっと横に置いておいて、早目に来てここに座って皆で話すとか。

- J委員 字で書くと、本当にそうやって思っているのかって気がします。
- E副会長 では皆さん書いて頂けましたか？それぞれに。Mさんから良いですか。
- M委員 時間もないので、公共施設の老朽化対策。新ゴミ処理施設の問題。子育て環境（学校施設等）の充実。未開通道路の整備。高齢化対策。農業施策です。
- H委員 私は人づくりということで、市民活動の充実と、女性と高齢者の活躍出来る場の提供、それから子どもを産み育てることに夢が持てるまちづくりです。具体的じゃないですけども。
- B委員 あまり具体性じゃないんですけども、やはり地域づくりコミュニティづくりというのをどうするかというのが、やはりどの施策の実行性を高める上でも重要で、さっきも言いましたけど、地域が課題を見つけて、そしてその地域が自ら努力してここまで解決出来たけれども、それ以上は行政に何とかして貰いたいという補完性の原則というのをですね。どの施策においても重視すべきであると。また、仕事づくりという意味で言えば、その課題×仕事というコミュニティビジネスとしての視点を入れていくべきであると思います。
- K委員 施策としては下に書いてあるんですけど、子どもへの教育と高齢者の活用の2個になります。どういう風なところの具体性は上に先に書いてしまったんですけど、地域課題を自ら発見して解決に向けて行動出来る自主性を育てるという部分かなと思います。教育で子どもに対する道徳とかも、色々教育が変わってきていますがそういったところでもう少し独自性を出したりとか、自主性という部分にターゲットを僕はしたいかな、と思います。以上です。
- J委員 最後の話が頭にいっぱい残ってしまって。金銭的・時間的に豊かに暮らせるサービスをもらっているということを実感出来ると、犬山市が充実した市だなというところをわかりやすく。わかりやすいと思います。
- E副会長 まず実感出来るようにということですね。多分書き出したら止まらないんですけどもB先生と同じで、地域の課題は地域で解決していく。Kさんも言ってみえていたその仕組みを作ることが施策。これは名古屋市は河村さんがアホだから地域委員会が大失敗したんですけども、中々本当は面白い仕組みだったんですけども。仕組みなんですね、やっぱり。これもKさんと同じですね。市民の自立支援、意欲を引き出す。これから高齢化社会にいきますので、健康寿命プラス10ということで、今、愛知県が80幾つかだから10ということは死ぬまで元気ということですね。そういう健康

施策。それからこれもB先生と同じですね。地域に必要なサービスを提供する事業体の起業支援。これから地域サービスはなくなっていくと思いますので、それを提供するような起業支援。特に担い手として、シニア・女性・若者というところの起業支援がいるだろう、ということです。それからシニアが経済的価値を創出出来るようにする。最近、厚労省は介護保険制度の改正で元気なシニアに助け合いをやらせようとしているんですけど、無償のボランティアでは経済が回りませんのでちゃんと対価を発生させて地域で使って頂くという。電球を交換したり誰かを助けて、それをちゃんと稼いで孫のために何か買うとかですかね。お金を回す仕組みをもうちょっと考えないといけないんじゃないのかなと。後は外国人観光客向けのネットワークというか、そういう連携を重視した戦略がいるんじゃないのかなと思います。後は子どもの個性を伸ばすエデュケーションという書き方をしましたけれども、保育と教育が今、言葉が誤解されているような気がしますので、本当に子どもの能力を伸ばすという、保育と教育の部分の考え方を考え直す必要があるのではないかということです。それから、もう1個がこれはMさんが言われた公共施設の活用で、これは今大分進んでいると思いますけれども、まだ小手先かなと思っていますので、もう少し売却したりとか民間に貸したりとかですよ。そういうところの、もうちょっと積極的な施策がいるんじゃないのかなと、このぐらいです。細かいイメージ。多分、皆さんと大体同じかなと思っています。

○B委員 先生がおまとめになったからですよ。

○E副会長 そうですね。まとめたというよりちょっとずれているところも。でも、彼女が言ってくださった、まず享受するということは大事かなと思います。一貫していないというのはそもそもの課題なんですけれども、それをどうするのかというのはかなり難しい施策ですね。それってやりすぎたらよくないので、それだけ財源もないですから。欲望ってキリがないんですよ。

○J委員 わがままとの境目がちょっとわかりにくいです。

○E副会長 そうなんですよね。どんどんエスカレートしていってしまうから、寧ろ私はこの辺のサービスを自分達で作出す。そういうサービスを自分達で作出して、それによって満足度って上がってくるんじゃないのかな。行政からの一方通行のサービスは限界だと思うんです。享受出来るんだけど、それが行政から受けるという発想を取らないと駄目じゃないのかなと思っています。自分達で。公共サービスイコール行政サービスではないんですよ。公共サービスというのは民間がもっと提供出来るもので、それがた

くさんあるところが本当は住みやすいまちになるはずなんですよね。公共サービスイコール行政サービスという考え方をまず取ることかなと思ったんですけど、凄く大事な視点ですよ。それを実感出来るようにしていくという。そのサービスの質の高さも示していきたいですよ。別に行政を批判しているわけじゃないんですよ。

○事務局 やはり、この5次総はメリハリがないなという視点が本当に今日感じられまして、また市民活動とか地域の課題を解決する、その着目点もやはりなかったですね。評価を見ると本当に0点になっている。0%。首長が変わっていく中でも、その辺の流れに連続性がなかったかなと、そんな風に見えました。

○E副会長 これ、かなり重点ですね。ここ。

○事務局 そうですね。今日ご意見頂いて参考になりました。

○E副会長 もう9時2分くらい前なので、今日ってそういえば私、A先生がやめるのを待っていたけれど、今日私が仕切っていたんだね。コロッと忘れていました。

○事務局 そうですよ。

○B委員 今も喋り続けていますよ。

○E副会長 全然、自分が取り回している気がないから、終わる気がないというのが。わかりました。

○事務局 今、向こうも発表を丁度やっていますので、もう終わると思います。

○事務局 シートも発表されましたね。

○E副会長 もう終わりましたかね。私は先生がやめるのを待っていた。油断しましたね。

○事務局 今日は色々な施策が出ました。

○E副会長 でも本当に大事な議論を見ながら。まず、こういうのもうちょっとやりたいですよ。何かもっとないのかなと思って、議会とかの進め方もね。

○B委員 他の地域のことだとか勉強されている人もいるし、こういうアイデアがあるよというのを皆で出し合っていきたいですよ。あまりこう、今の批判ばかりでもね。良くないと思うし。

○E副会長 そうですよ。これは集めた方がいいんですか？

○事務局 一応今日はここまでの作業ということで。

○E副会長 そうですね。次回の時に整理して頂いて、少し皆さんで共有すると良いかもしれませぬ。

○事務局 そうですね。ありがとうございます。

○E副会長 だから事務局が説明するんじゃないなくて、こっちが説明した方が良いんじゃないですか？自分達で。その方が臨場感あるお話が出来るかなと思うんですけど。このまま組織を作っていきたいくらいですよ。

○事務局 このメンバーで？

○E副会長 はい。長久手市が面白いことを始めましたよね。一本釣りで十何人集めて地域作りを始めましたね。コンサルもどこも使わないで、そんなところにファシリティ入ってもらっても意味がないといった感じで。大抵、我がまちにはリーダーがいないと言われるんですよ。だけど、リーダーはいるんだという話で、それを最初からリーダーはいるんだけどその素質のある方はいらっしゃるから、その人達が集まれば切磋琢磨して伸びていくんだということで始めたら、以外に良い動きになってきたそうです。私も名簿を見せて頂いたら、本当に知らない人ばかりいたんですよ。それが凄いなと思ったんです。それが良いですよ、やっぱり。一平ちゃんだったらやりそうでしょ。失敗してもいいからって。吉田一平ちゃんといってゴジカラ村とかだいたい村とかを作って、凄い立派な焼き物の玄関の壁があるところに古材で古い柱を建てちゃって、市長の皆の部屋みたいなものを作っちゃった人。勝手なことばかり。

○B委員 市民活動家の方ですよ。何かで見たことがある。

○J委員 若い方ですか？

○E副会長 もういい歳ですよ。やりたいことやり尽くして。いい歳で。だけど、市民側の動きの作り方はとても良いなというのと、あと、市長になってすぐ職員の方に言ったことが「市民参加とか市民協働とかやらないといけないと思って肩張るな。1年間は何もやるな」という指示を出しているんですよ。吉田さんがそういう市民活動家だから、頑張らないといけないと職員が頑張るとろくなことにならないから、1年間は何もやるなという指示を出したそうなんでしょうね。これは凄いですよね。市民側からのうねりを起こすということをやられたそうです。これも1つの政策になりますよね。こういうやり方が。

○B委員 行政がやり過ぎるのも良くないですよ。

○E副会長 仕掛けは作らないといけないから上手にね。それを具体的なものはどうするかっていうのはあるけど。なんとなく今、骨格は出ていましたよね。皆さんから出たので。農業がちょっとあれだったけど。農業関係がね。

○B委員 農業農業って言っていたので。

○E副会長 そうでしょうかね。

○B委員 もう1回ちょっと。

○E副会長 聞こえていましたか。そうですか。じゃあ任せますかね。

○事務局 A グループも作業が終わったようですので。ではこちらの方は事務局でまとめさせて頂いて、また次回お話しさせていただきます。

○E副会長 ありがとうございます。どこかでオフ会やりたいですね。

3 閉 会

○E副会長 皆さん、お疲れ様でした。それぞれがどんな議論をされていたかというのは非常に興味深いところなのですが、それは事務局の方で一度整理して頂いて、次回に皆さんと共有が出来ればと思います。

○事務局 承知しました。今回、基本構想の部分でもご意見・ご提案頂きましたので、そこはもう一度精査してフィードバックをさせていただきます。それから、今日頂いたご意見・ご提案をまとめまして、また皆さんにお示しすると共に、第3回では次のステップで施策の全体像、こちらは事務局提案とさせて頂きたいと思います。本日頂いたご意見・ご提案を踏まえて、一度精査させて頂き、施策の全体像という風に話し合いではございますがお示しさせて頂きたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

○E副会長 ありがとうございます。それでは皆さん、最後に一言だけ言っておきたいとありますか。大丈夫ですか。時間も押していますので、でも、一言だけでもおありになれば、いいですか。それでは、今日も本当に活発な意見交換ありがとうございます。私から事務局へのお願いは、次回に協議の内容を共有するときに、出来たら委員さんに発表して頂いた方が良くないかと思っております。事務局からの説明が悪いというわけではなくて、委員さんから言われた方が他のグループの方に臨場感が伝わると思っておりますので、出来たらそうして頂けると良いと思います。最後に事務局から何かありますか。次回の開催日等。

○事務局 ありがとうございます。皆様お疲れ様でした。次回の開催日は、第3回の審議会なのですが、実はメールの方で先日10/19(水)、この場所の2階の会議室でご案内しておりましたが、色々調整して出席・欠席のお話を聞く中で、少し欠席の委員の方も見えてきた、多くなりそうでございます。ですので再度調整をさせて頂きまして、また調整の上緊急に、日にちもございませんので緊急にご連絡をさせて頂きたいと思っております。

ます。ちなみに候補日としては、10/19（水）という線も含めつつ、10/17（月）を、同じく19時から、こちらの候補日を検討しながら、皆様と調整させて頂いて、最終的に決定してご連絡させて頂きたいと思いますので、よろしくお願い致します。以上です。

○E副会長 ありがとうございます。すいません。では9時少し回ってしまいましたけども、これで第2回の犬山市総合計画審議会、終了させて頂きたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

(以上)